

100th
2018

 **新田ゼンセン株式会社**

株主通信 第77期 ご報告

2015.4.1▶2016.3.31

99th

新たな視点で
次のステージへ

98th

第77期 ダイジェスト

国内事業

菓子や総菜などの食用の需要が好調、食品の機能性表示制度開始やインバウンド消費効果により健康食品が堅調に推移

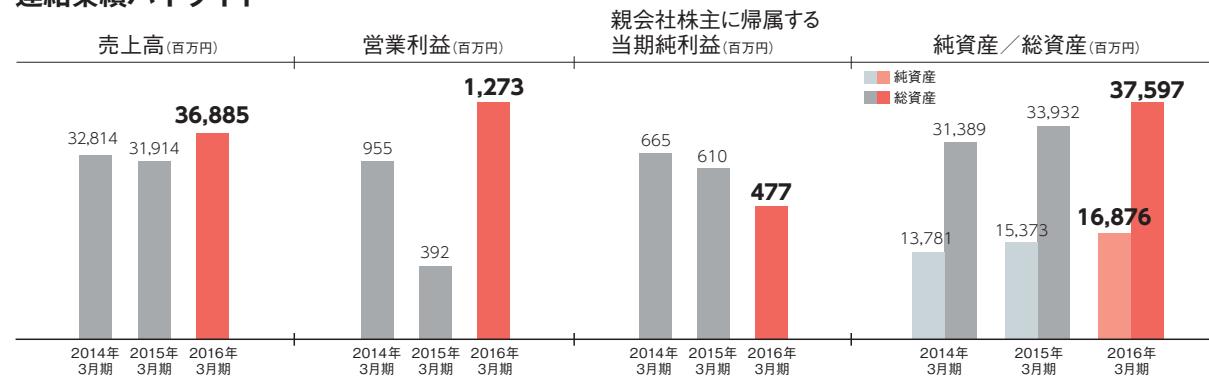
海外展開

北米では食用が堅調に推移
ニッタゼラチンインディアLtd.(インド)及びインドの関連会社2社を連結子会社化

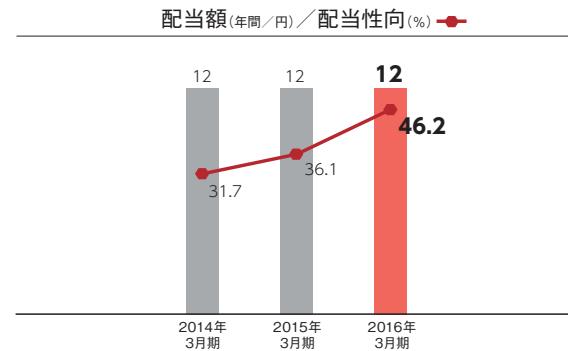
主な取り組みと成果

新たに「国際部」を設置
海外子会社・海外事業活動の統制、原材料の調達を一括管理

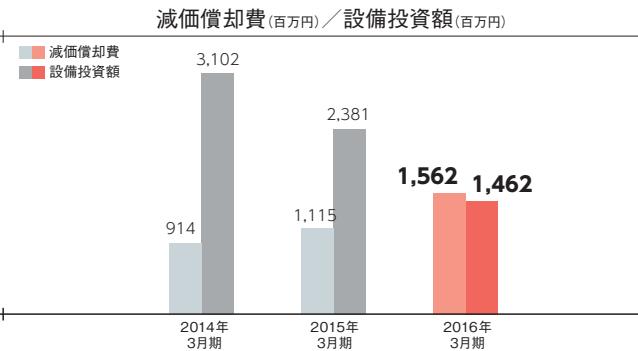
連結業績ハイライト



配当の推移



資本政策



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げますとともに、日頃からの温かいご支援に厚く御礼申し上げます。ここに「第77期 ご報告」をお届けいたします。

当社は現在、2018年の創業100年に向け、『新たな視点で次のステージへ』をスローガンとした3か年中期経営計画を推進しています。私たちは、常にチャレンジ精神を持ち、社にはある『最高の技術と最大の活力』によって、次の100年に向けた更なる成長を目指し、全社員一丸となって事業活動に邁進していく所存です。

株主の皆様には、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

社長就任からの一年を振り返って

昨年4月の社長就任から早くも一年が経過しました。『新たな視点で次のステージへ』を目指すべく、基本戦略に『質の追求』を掲げ、経営基盤の強化を図ってきました。当社を取り巻く事業環境には厳しい側面もありましたが、就任初年度を経て様々な課題が見えてきたと同時に、満足できる成果も出てきています。国内では、主力の食品用や医薬品用製品がインバウンド需要や規制緩和による効果も加わり、堅調に推移しました。海外においても、インド子会社の連結化による増収、北米のコラーゲンペプチド工場稼働ほか、グローバル生産体制への投資に対する回収も順調に進んでいます。今後も、企業価値の向上に向けて邁進していく所存です。

新田ゼラチン株式会社
代表取締役社長

尾形 浩一



創業100年に向けて

当社は、2018年(平成30年)に創業100年を迎えます。そこで創業100年に向け新たに2016年3月期を初年度とする3カ年の中期経営計画を策定し、最終年度の2018年3月期に、売上高410億円、営業利益20億円を目標としました。次期は、目標達成の重要な年と位置づけ、製品の品質のみならず、営業・生産・品質管理・研究開発など、全ての質の向上を図っていきます。また、最適地での生産と販売、原材料費など、徹底したコスト削減を行っていきます。

2016年3月期の経営成績についてお聞かせください。

当社グループは、2016年3月期から新しい経営体制をとり、日本・北米・アジアを中心に、ゼラチン、コラーゲンペプチド及びコラーゲンケーシングの生産・販売活動に注力し、全社一丸となって収益の回復に取り組んでいます。

コラーゲン素材事業において国内では、菓子や総菜など食用の需要が好調に推移し、またインバウンド需要や食品の機能性表示制度開始により、健康食品向けカプセル用の需要も堅調に推移しました。

海外では、北米での食用が堅調に推移しました。また、ゼラチン原料の調達・ハラル製品の供給拠点であるニッタゼラチンインディアLtd.(インド)及びインドの関連会社2社を2015年4月より連結子会社としました。

フォーミュラソリューション事業では、新規顧客の開拓ができたことにより売上高は堅調に推移しました。

以上の結果、売上高36,885百万円(前期比15.6%増)、営業利益1,273百万円(前期比224.2%増)、経常利益979百万円(前期比1.2%増)となりました。また、中国の連結子会社を持分法適用関連会社にしたことなどにより、特別利益727百万円、特別損失666百万円を計上しました。非支配株主に帰属する当期純利益を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は477百万円(前期比21.7%減)となりました。



中期経営計画(2016年3月期~2018年3月期)の進捗状況、今後の展望についてお聞かせください。

3カ年中期経営計画の初年度が終了しました。戦略課題の進捗状況をご報告いたします。

《高付加価値商品の開発》

お客様に新しい価値を提供できる、これまでになかった高付加価値商品の開発へのチャレンジが重要と考えています。例えば、コラーゲンペプチドは日本、中国、北米、アジアを中心にまだまだ伸びる余地があると考えています。当社は、その機能性を十分に研究し、エビデンスも持っています。これは世界的にも自負できることです。また、再生医療分野に向けた開発・研究を進めており、人工皮膚や人工骨などの開発に貢献しています。十分な研究と開発を進め、グローバルに販売できるよう、さらに力を入れていきたいと考えています。

《最適生産・最適販売》

アジアでは日本も含め、インド・ベトナム・中国を中心とした地産地消を進めています。日本で生産して

いるゼラチンを北米に輸出し、北米からはほぼ同量の豚皮ゼラチンを輸入しています。今後は、可能な限り日本やインドで生産したものは自国内とアジア向けに、北米で生産したものは北米で販売することを基本にしていきたいと考えています。

《グローバル経営基盤の強化》

若手社員を中心に、北米やインド、中国での駐在を経験させています。これは、技術の習得やグローバル人材の育成が目的です。例えば、北米工場では豚皮ゼラチンやケーシング生産に関する技術習得などを行っています。また、今期より「国際部」を設立しました。責任者は、カナダ人で取締役のレイモンド・メルツです。今後、海外子会社・海外事業活動の統制や原材料の調達管理等を任せていきます。

以上のように、中期経営計画の初年度については、収益回復の成果が出てきており、次期についても、好調を維持できると考えています。

最後に

私は常々、社員に対して、会社や事業を「今後どのようにしていきたいか?」その目標を明確にするように言っています。今、一番大事にしている言葉は、吉田松陰の「夢なき者に成功なし」です。夢(目標)に向かって行動(実行)することで、成功が得られるということです。夢(目標)が無ければ何も生まれません。

当社はコラーゲンやゼラチンの様々な特徴を引き

出し成長してきました。これからも、私たちが創出していく新しい技術によって、更なる発展を遂げる余地が十分にあると考えています。

株主の皆様へは、今後ともご支援・ご鞭撻をお願いいたします。これからの新田ゼラチングループの躍進にご期待ください。

魔法の素材 コラーゲン

コラーゲンは、動物の体に最も多く含まれるタンパク質で、生体の全タンパク質の約30%を占めています。特に、皮膚や骨・軟骨・腱など結合組織の主要な構成成分です。

生体内のコラーゲン分子は、規則正しい三重らせん構造になっています。水には溶けませんが、長時間加熱すると、ある温度で三本鎖の構造がほどけ、温液中に溶け出します。このように、熱で変性し、温水に溶けたコラーゲンを「ゼラチン」と呼びます。

ゼラチンをタンパク質分解酵素で加水分解し、低分子に加工したものが「コラーゲンペプチド」です。



コラーゲン

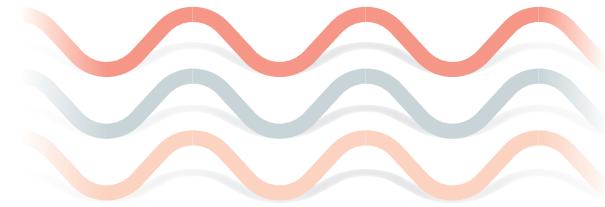
保湿、膜をつくる



化粧品



ソーセージの皮



ゼラチン

溶ける・固まる



グミ



マシュマロ



コンビニ総菜



コラーゲンペプチド

生理活性機能(肌、骨、関節)



健康食品・サプリメント

コラーゲン素材事業

動物の骨や皮、魚の鱗や皮などから、ゼラチンやコラーゲンペプチド、コラーゲン、コラーゲンケーシングなどを製造・販売しています。

フォーミュラソリューション事業

様々な素材の配合技術により、付加価値の高い製剤を製造・販売し、顧客の要求する商品企画、アプリケーションや課題解決を実現します。

ブランド展開

Wellnex[®]

Wellnexは、当社が開発した高機能コラーゲンペプチドのグローバルブランドです。

ゼラチンを低分子化処理したコラーゲンペプチドは肌、関節、骨、筋肉などの機能を健康に維持する効果が認められており、栄養補助食品やサプリメントなどの食料品分野で活用されています。Wellnexの機能をより知っていただくための情報サイト「Wellnex-Collagen.com」を開設しておりますので、是非ご覧ください。



G-zain[®]
ジザイン

G-zainは、スマートフォンやデジタルカメラなどの電子機器の気密性を高めるために活用されています。G-zainはパッキンの取り付けを完全自動化する高機能樹脂で、接着剤の研究で培った特許技術から誕生しました。当社大阪工場内に新設したAIC棟(接着剤技術革新センター)では、G-zainの更なる可能性を追求しています。

beMatrix[®]

当社は、医療の分野にも積極的に取り組んでいます。コラーゲンは、細胞との親和性が高いため、組織の自己再生、修復を促す人工皮膚や人工骨に用いられる生体材料として使用されています。高齢者の主な失明の原因となる「加齢黄斑変性」の治療のため、世界で初めて行われたヒトiPS細胞由来の網膜色素上皮細胞手術で、beMatrixコラーゲンが活躍しました。

営業概況

コラーゲン素材事業

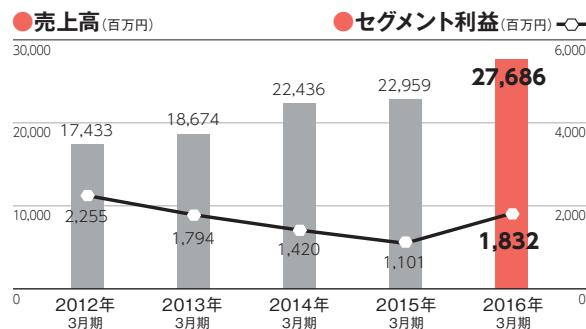
国内では、菓子や総菜など食用ゼラチンの需要が順調に推移しました。またインバウンド需要や規制緩和による機能性表示食品の発売など、健康食品が堅調であった為、サプリメント用の需要も増え売上高が増加しました。

北米では、一昨年来の健康食品のネガティブ報道の影響により冷え込んでいたサプリメント市場は回復途上にあります。また、インド子会社3社の連結子会社化に伴う売上高の寄与3,489百万円もあり、ゼラチンの売上高は大きく増加しました。

コラーゲンペプチドは、生体調整機能などの良さが再認識され、健康食品向けが好調に推移し、また新たに一般食品に採用されたことにより売上高は増加しました。

コラーゲンケーシングは、ドル高による北米での競争激化と北米からの輸出が減少したため売上高は減少し、利益

は大幅に減少しました。
以上の結果、売上高27,686百万円(前期比20.6%増)、セグメント利益1,832百万円(前期比66.3%増)となりました。



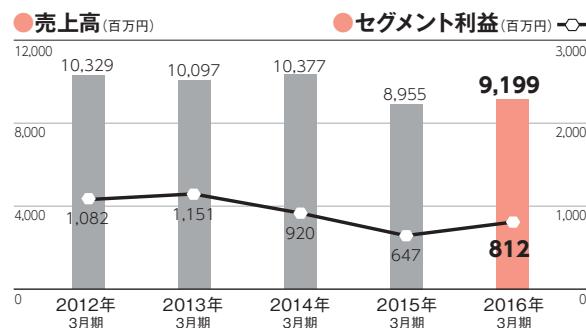
フォーミュラソリューション事業

食品材料は、製菓・デザート用の新規顧客開拓もあり、売上高は堅調に推移しましたが、利益は原材料価格の高騰により前年並みとなりました。

接着剤は、包装用が堅調に推移し、また衛生材料用は顧客が当社からの調達を再開したため売上高は増加しました。

一方、製本用は市場の縮小により売上高は減少しました。利益はコストダウンに努めたことにより増加しました。

以上の結果、売上高9,199百万円(前期比2.7%増)、セグメント利益812百万円(前期比25.5%増)となりました。



財務諸表(要旨)

	2015年3月期末	2016年3月期末
連結貸借対照表 (百万円)		
資産の部 Point ①		
流動資産	18,038	19,657
固定資産	15,893	17,940
資産合計	33,932	37,597
負債の部 Point ②		
流動負債	10,274	11,076
固定負債	8,283	9,644
負債合計	18,558	20,720
純資産の部 Point ③		
株主資本	15,423	15,680
その他の包括利益累計額	△152	△707
非支配株主持分	102	1,904
純資産合計	15,373	16,876
負債純資産合計	33,932	37,597

	2015年3月期	2016年3月期
連結損益計算書 (百万円)		
売上高	31,914	36,885
売上原価	25,944	29,196
売上総利益	5,970	7,689
販売費及び一般管理費	5,577	6,416
営業利益	392	1,273
営業外収益	805	202
営業外費用	230	495
経常利益	967	979
税金等調整前当期純利益	933	1,040
親会社株主に帰属する当期純利益	610	477

	2015年3月期	2016年3月期
連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円) Point ④		
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,074	2,385
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,505	△1,860
財務活動によるキャッシュ・フロー	544	△473
現金及び現金同等物に係る換算差額	83	△103
現金及び現金同等物の期首残高	2,406	2,602
現金及び現金同等物の期末残高	2,602	2,536

Point ① 資産

資産は、前期末比3,665百万円増加の37,597百万円となりました。主な要因は、投資有価証券が減少した一方で、受取手形及び売掛金、商品及び製品などのたな卸資産、有形固定資産等が増加したことによるものです。

Point ② 負債

負債は、前期末比2,162百万円増加の20,720百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金、短期借入金、長期借入金(1年内返済予定を含む)、繰延税金負債等が増加したことによるものです。

Point ③ 純資産

純資産は、前期末比1,503百万円増加の16,876百万円となりました。主な要因は、非支配株主持分等が増加したことによるものです。
この結果、自己資本比率は39.8%(前連結会計年度末45.0%)となりました。

Point ④ キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前期末比65百万円減少の2,536百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により獲得した資金は2,385百万円となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益1,040百万円、減価償却費1,562百万円、仕入債務の増加額724百万円、段階取得に係る差損620百万円及び負ののれん発生益502百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により使用した資金は1,860百万円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1,548百万円及び関係会社株式の取得による支出222百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により使用した資金は473百万円となりました。主な要因は、長期借入れによる収入2,821百万円、長期借入金の返済による支出2,502百万円、短期借入金の純減額544百万円によるものです。

企業情報

会社概要 (2016年3月31日現在)

本店	〒556-0022 大阪市浪速区桜川4丁目4番26号	事業内容	食用、医療用、写真用ゼラチンの製造・販売 コラーゲンペプチドの製造・販売 コラーゲンケーシングの製造・販売 化粧品、生体材料用、生化学用コラーゲンの製造・販売 ゲル化剤、安定剤等の食品材料の製造・販売 包装用、製本用、建材用、衛生用接着剤の製造・販売
創業	1918年1月	事業所	国内10ヵ所 海外15ヵ所
設立	1945年2月10日		
資本金	3,144百万円		
売上高	単体:227億円(2016年3月期) 連結:368億円(2016年3月期)		
従業員数	単体:261名(2016年3月末現在) 連結:1,192名(2016年3月末現在)		

役員 (2016年6月28日現在)

取締役会長	曾我 憲道
代表取締役社長	尾形 浩一
取締役 執行役員	玉岡 徹
取締役 執行役員	レイモンド・メルツ
取締役 執行役員	杉本 芳久
取締役 執行役員	新田 浩士
取締役 (社外)	石原 真弓
取締役 (社外)	末川 久幸

常勤監査役	高瀬 博
監査役 (社外)	東郷 重興
監査役 (社外)	津田 多聞

常務執行役員	山本 健男
執行役員	竹宮 秀典
執行役員	山本 祐二
執行役員	小田 義高
執行役員	ヨーゲン・ギャラート
執行役員	西川 誠一
執行役員	高木 正一
執行役員	長岡 令文

関係会社 (2016年3月31日現在)

Nitta Gelatin NA Inc. (米国)
Nitta Gelatin Canada, Inc. (カナダ)
Nitta Gelatin USA, Inc. (米国)
Nitta Casings Inc. (米国)
Nitta Casings (Canada) Inc. (カナダ)
Nitta Gelatin Holding, Inc. (米国)
Nitta Gelatin India Ltd. (インド)
Bamni Proteins Ltd. (インド)
Reva Proteins Ltd. (インド)
上海新田明膠有限公司 (中国)
北京秋実膠原腸衣有限公司 (中国)
Nitta Hong Kong Ltd. (中国)
Nitta Gelatin Vietnam Co., Ltd. (ベトナム)
新田ゼラチンフーズ株式会社
株式会社ニッタバイオラボ
彦根ゼラチン株式会社
ポストイック・ニッタ株式会社
広東百維生物科技有限公司 (中国)
新寿サービス株式会社

株式・投資家情報

株式の状況 (2016年3月31日現在)

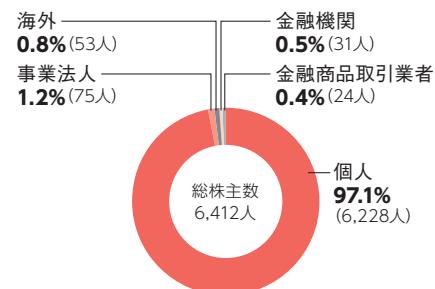
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式数	18,373,974株
株主数	6,412名

大株主

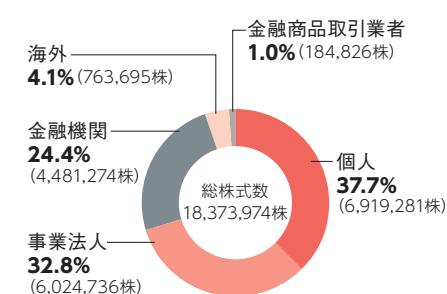
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
アイビーピー株式会社	2,966,516	16.15
ニッタ株式会社	840,014	4.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	701,000	3.82
株式会社三井住友銀行	630,286	3.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	621,074	3.38
有限会社以和貴	533,600	2.90
新田ゼラチン従業員持株会	502,600	2.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	406,800	2.21
石塚産業株式会社	382,014	2.08
株式会社りそな銀行	334,672	1.82

株式の分布状況 (2016年3月31日現在)

所有者別株主分布状況



所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4977
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先) (電話照会先) (インターネットホームページ)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 フリーダイヤル 0120-782-031 http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

株主優待

株主様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ること、及び当社グループの事業へのご理解を賜りたく、株主優待を実施いたします。

株主ご優待制度の内容

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

【優待内容】 当社子会社の株式会社ニッタバイオラボが販売する、当社の消費者向け商品(健康食品、化粧品、ゼラチン等)、もしくは、当社商品のお買物優待券をご所有株式数に応じて贈呈いたします。

【贈呈の時期】 7月中旬頃の発送を予定しております。



株主優待商品例
(3,000円相当)

※諸般の事情により、商品セットの内容を変更することがございます。